

2008年2月4日

京セラ株式会社 事業説明会

本日のプレゼンテーション

1. 2008年3月期 通期業績予想
2. 2008年 経営方針「創造と成長」
3. 三洋電機(株)携帯電話事業承継の戦略的意義

代表取締役社長 川村 誠

4. ソーラーエネルギー事業の戦略

執行役員専務 ソーラーエネルギー事業本部長 前田 辰巳

将来予想に関する注意事項

この配布資料に記載されている記述には、1934年米国証券取引所施行21E条に定義される「将来予想に関する記述」(forward-looking statements)が含まれています。これらの将来予想に関する記述は、現時点で入手できる情報に鑑みて当社が予想を行い、所信を表明したものであります。これらの将来予想に関する記述は、既知及び未知のリスク、不確実な要因及びその他の要因を含んでいます。かかるリスク、不確実な要因及びその他の要因は以下のものを含みますが、これらに限られるものではありません。

- (1) 当社が関連する市場の状況(特に、日本、米国、欧州及びアジア(中国を含む)の経済状況)。
- (2) 中国における経済・政治・法律面での条件の予測し得ない変化。
- (3) 競争の厳しいセラミック、半導体部品及び電子部品市場における当社の、革新的な製品を開発・生産し、品質・納期を含めて、顧客の要求に沿った先進技術を投入する能力。
- (4) 生産高や業績に影響を与える社外委託工程や自社内製造過程で生じる遅れや不具合の発生。
- (5) 円高、政治的・経済的な不安定状態、輸出売掛金の回収の困難性、製品の価格競争力の低下、輸送経費の増大、海外事業所管理の問題、知的財産権の保護の不十分性等輸出に影響する可能性がある要素。
- (6) 当社の売上高の相当な部分を構成している通貨(特に米ドル及びユーロ)と円との為替レート。
- (7) 技術力を有する科学・技術その他の分野の人材の不足。
- (8) 当社の機密保持及び特許等の知的財産権の保護の確保。
- (9) 当社製品を継続的に製造・販売する為に必要となるライセンスの安定的確保。
- (10) 生産及び開発能力の拡大、もしくは現在進行中の研究開発が期待される成果を生み出さない場合。
- (11) テロ行為、疾病の発生、その他当社の市場やサプライチェーンに混乱を与える可能性のある要素。
- (12) 当社の製造施設その他主要な事業関連施設がある地域における地震などの自然災害の発生。
- (13) 保有する有価証券その他の資産の時価の変動、減損処理の発生及び会計基準の変更。

かかるリスク、不確実な要因及びその他の要因により、当社の実際の業績、事業活動、展開または財務状況は、これらの将来予想に関する記述に明示または包含される将来の業績、事業活動、展開または財務状況と大きく異なる場合があります。当社は、この配布資料に記載されている将来予想に関する記述についてこれらの内容を更新し公表する責任を負いません。

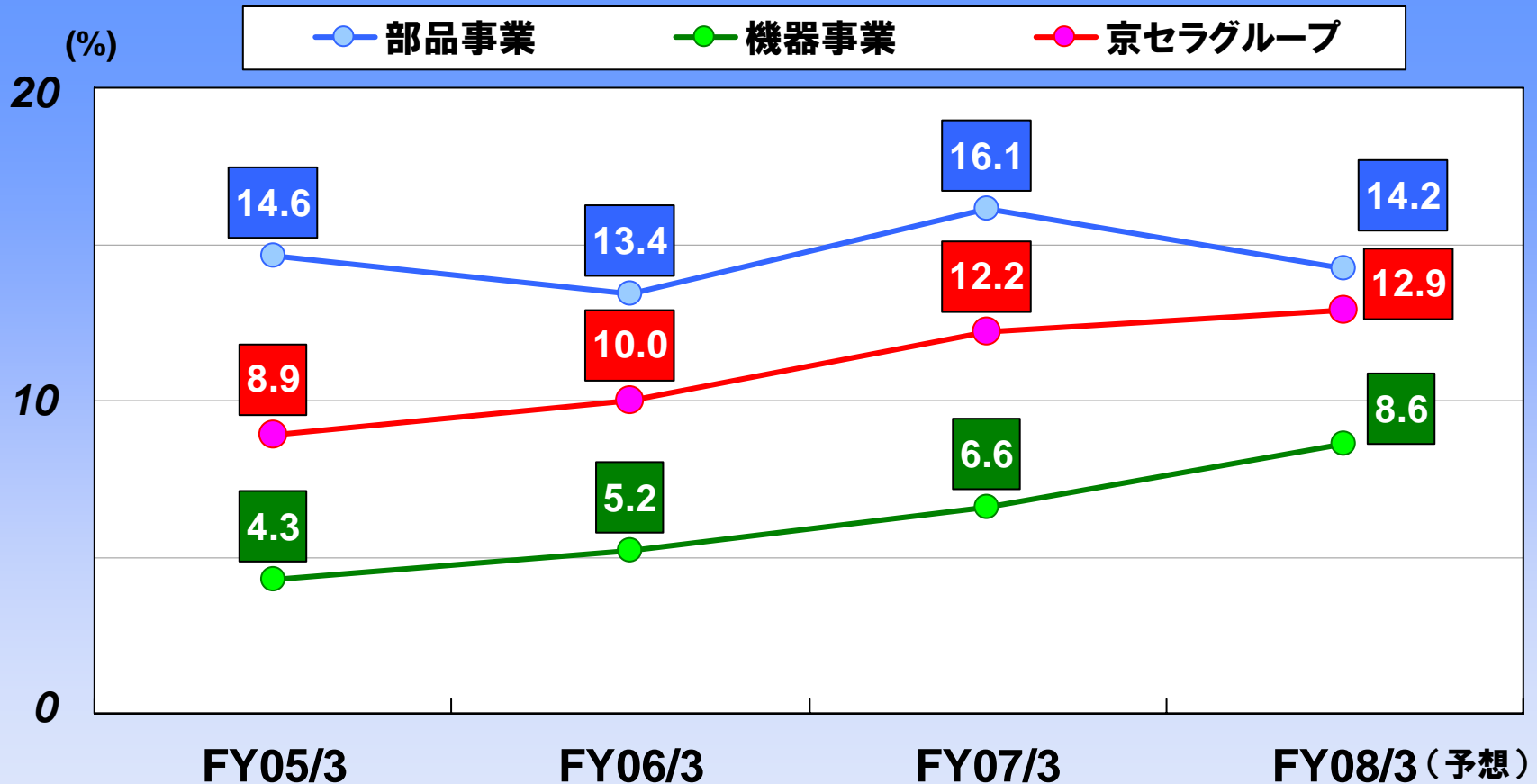
2008年3月期 連結業績予想

(単位:百万円)

	2007年3月期 実績		2008年3月期				前期比 増減率(%)
	金額	売上高比(%)	前回予想 (2007年10月)		今回予想 (2008年1月)		
			金額	売上高比(%)	金額	売上高比(%)	
売上高	1,283,897	100.0	1,330,000	100.0	1,290,000	100.0	0.5
営業利益	135,102	10.5	151,000	11.4	140,000	10.9	3.6
税引前当期純利益	156,540	12.2	166,000	12.5	166,000	12.9	6.0
当期純利益	106,504	8.3	103,000	7.7	103,000	8.0	-3.3
希薄化後1株当たり 当期純利益(円)	564.79	—	543.40	—	543.33	—	-3.8
設備投資額	69,896	5.4	81,000	6.1	81,000	6.3	15.9
減価償却費	70,155	5.5	79,000	5.9	76,000	5.9	8.3
研究開発費	61,100	4.8	65,000	4.9	63,000	4.9	3.1
平均為替レート	対ドル:117円	対ユーロ:150円	対ドル:115円	対ユーロ:156円	対ドル:115円	対ユーロ:161円	
為替の変動による 影響額(前期比)	売上高	396億円		-37億円		57億円	
	税引前 当期純利益	157億円		25億円		72億円	

税引前利益率の推移

— 2005年3月期～2008年3月期（予想） —



3期連続増益 / 京セラグループ税引前利益率12.9%（予想）

注)2008年3月期より、これまで独立した事業セグメントとして表示していた「光学機器関連事業」を「その他の事業」に含めて開示することとしました。

2008年3月期 業績予想概要（1）

－ 部品事業（前期比 4.0%増収、8.3%減益を予想）－

1. 第4四半期事業環境見通し

- ・ 半導体製造装置産業など一部業界の低迷が続く
- ・ 受動部品の需要は2～3月から上向くと予想
- ・ 予想平均為替レートを変更

平均為替レート	FY07Q4	FY08Q4(予)
ドル	¥120	¥107
ユーロ	¥156	¥155

2. 減価償却費の増加（前期比約100億円増加）

- ・ 計上方法見直しによる「部品事業」への影響額は、年間で95億円を予想

3. 事業構造改革費用を計上

- ・ 切削工具事業の「のれん」を減損、約20億円を保守的に見込む

4. 戦略事業の収益性が向上

- ・ ソーラーエネルギー事業、上期に比べ大幅に増収増益
- ・ 有機パッケージ事業は通期黒字化を予想

2008年3月期 業績予想概要（2）

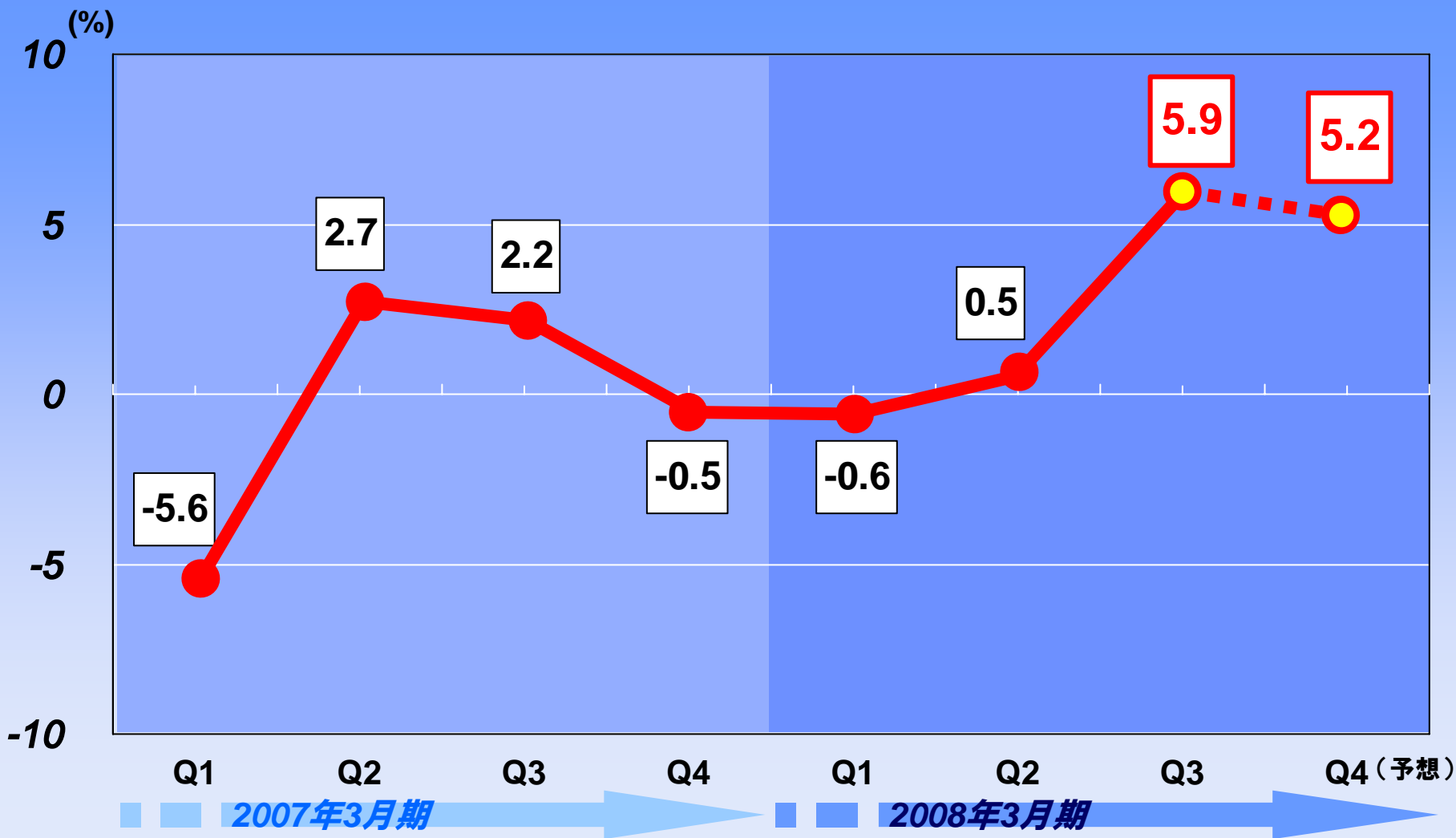
－ 機器事業（前期比 3.8%減収、25.5%増益を予想）－

1. 通信機器関連事業は下期事業利益率5%水準へ

- ・ 高機能モデルの販売増による国内携帯電話端末事業の増益
- ・ PHS関連事業は、国内市場特化で利益率向上
- ・ KWCの売上は前期比大幅減
しかし、下期の収益性は上期に比べ改善



通信機器関連事業の事業利益率推移



2008年3月期 業績予想概要（3）

－ 機器事業（前期比 3.8%減収、25.5%増益を予想）－

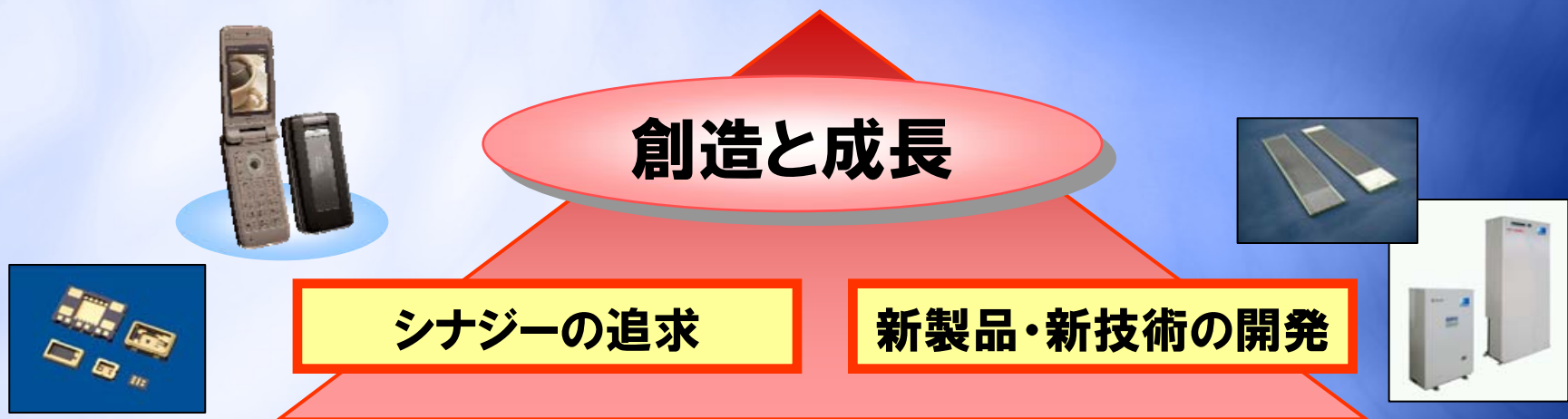
2. 情報機器関連事業は前期比増収増益

- ・ 米国向け売上は経済の不透明感により減少
- ・ 欧州を中心としたプリンタの売上拡大
- ・ モノクロおよびカラー機の新製品の継続的な投入
- ・ カラー比率の向上による消耗品売上の拡大



「創造と成長」により持続的な成長を図る

持続的な売上拡大と高い収益率を実現



経営基本方針

お客様第一主義を貫く

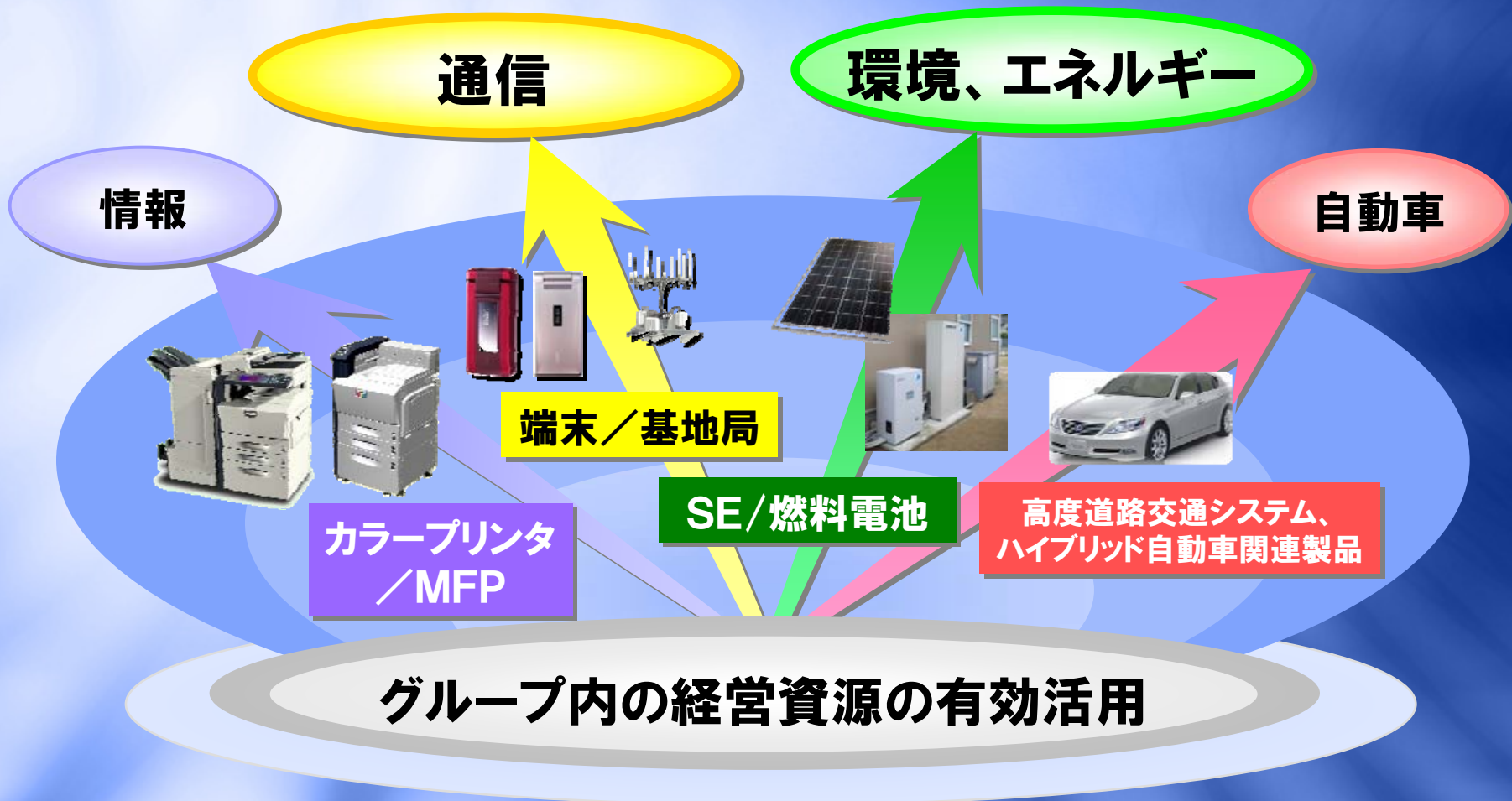
グローバル経営の推進

高収益体質の構築

アメーバ経営への原点回帰

創造と成長：重点市場

重点市場での新製品・新技術開発の促進



2009年3月期の事業環境見通し

1. 経済環境については不透明感強まる

- ・ 米国、欧州の個人消費の減退恐れ
- ・ 企業の設備投資（IT投資）の減少恐れ
- ・ ドル、ユーロに対する円高

2. デジタル機器の需要は伸びを持続

- ・ 北京オリンピック需要
- ・ 新興市場での堅調な需要
- ・ デジタル化による
1台当たりの部品
使用数の増加

CY2008 出荷台数予想

	CY2008見通し (百万台)	CY2007比 (増減率)
携帯電話端末	1,265	+10%
パーソナルコンピュータ	286	+10%
デジタルテレビ	115~125	+20~30%

2009年3月期の課題

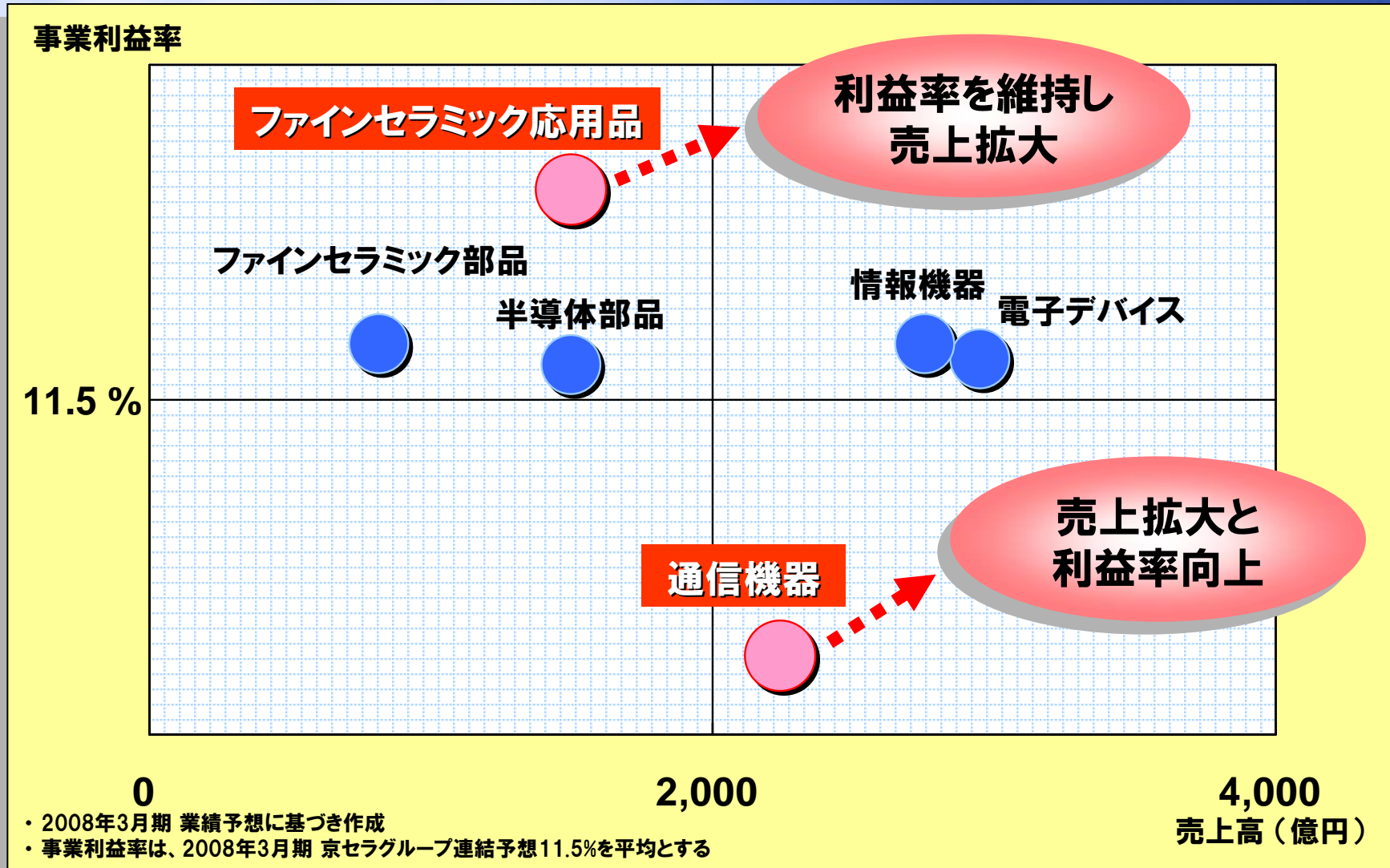
1. 戦略事業の強化により、持続的な成長の達成

- ソーラーエネルギー事業の拡大（売上高目標：早期に1,000億円）
- 三洋電機(株)の携帯電話事業承継後の新通信機器関連事業の拡大（統合後の事業計画立案中）
- 情報機器関連事業の製品ラインアップの拡充（売上高目標：早期に3,000億円）
- 有機パッケージ事業の売上拡大

2. 市場動向を的確に把握し、慎重な増産投資を実行

3. 新事業の創造による成長

創造と成長：2009年3月期の取組み



三洋電機(株)携帯電話事業承継の戦略的意義

三洋電機(株)携帯電話事業承継の対象事業

1. 国内端末関連事業

2. 国内インフラ事業

3. 海外事業



国内携帯端末事業における強化すべきポイント

買い替え移行促進



京セラ・三洋それぞれの既存ユーザーの
確実な維持継続を図る

京セラブランド確立



京セラ・三洋それぞれの端末カテゴリを
明確にし、フル領域をカバーしながら、
多くのユーザーから支持が得られるよう
なブランドを構築する

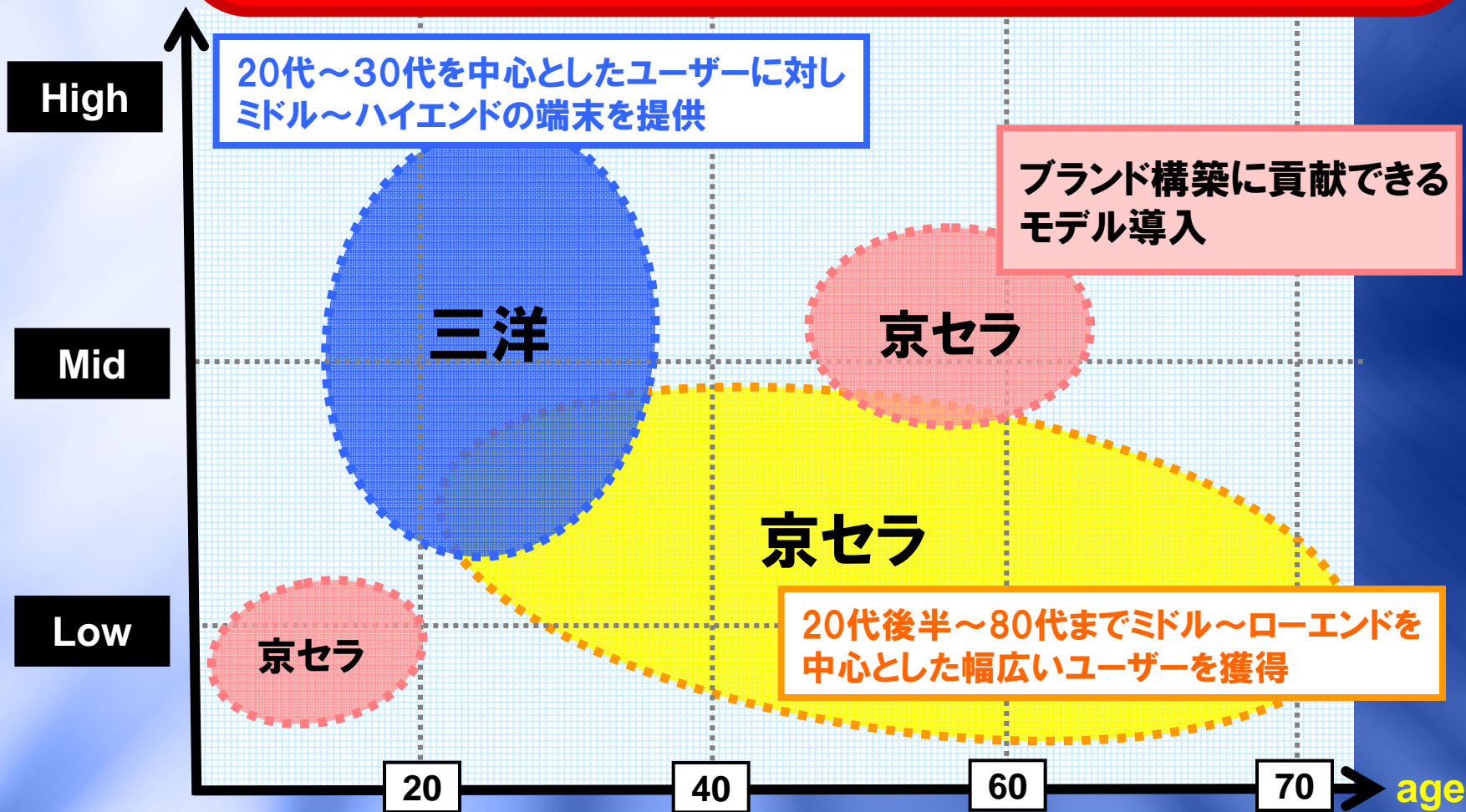
デザイン開発力強化



京セラ・三洋の経営資源を融合させ、
お客様のニーズにお応えできる、端末
ポジションに沿った、魅力あるデザインを
実現する

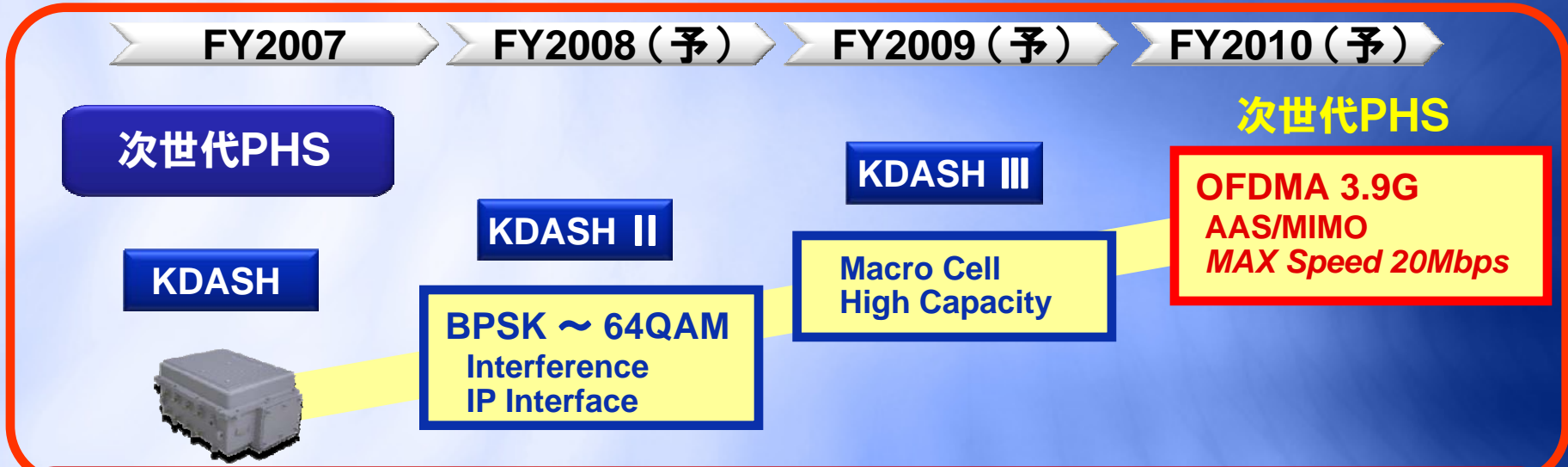
携帯端末ラインアップポジション

これまでのポジションを継続して獲得できるラインアップに加え
 新たなブランド構築に貢献できるモデルを導入



ユーザー特性に合った 製品ラインアップ投入

基地局



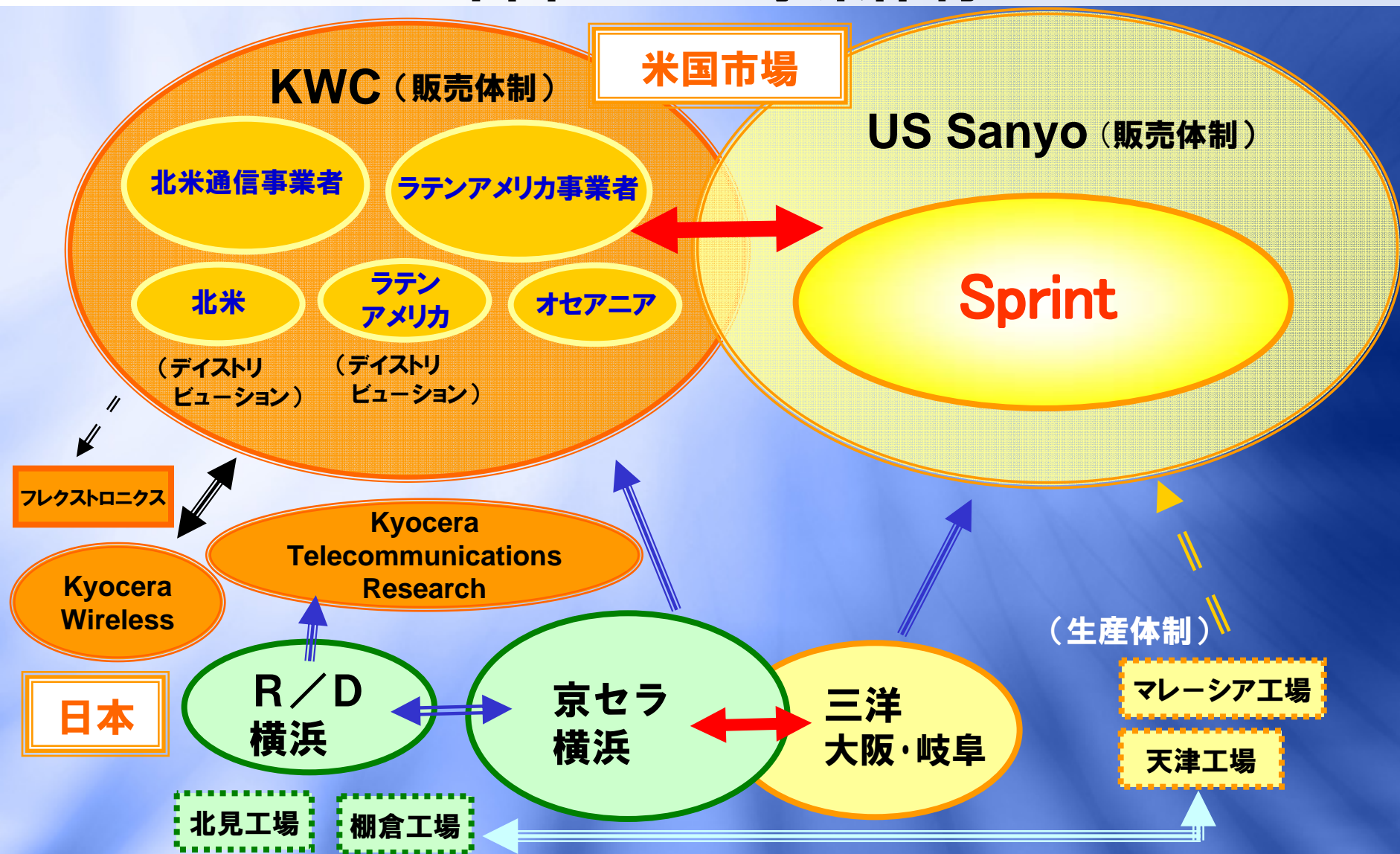
三洋との技術統合による次世代PHS基地局開発リソース効率化

モバイルWiMAX

2009年2月28日サービスイン(予定)に向け

モバイルWiMAX事業への投資期待

米国における事業体制



コストシナジー

1. KWCとのシナジー（FY2009）

- 開発費の低減
- リスク低減

2. 材料費のコストダウン

- 原価創造活動（京セラ→三洋）
- 海外部品調達（三洋→京セラ）

3. 海外生産ノウハウ（三洋→京セラ）

売上シナジー

① 商品ロードマップの共有化

- ブランドポリシー明確化
- 商品ラインナップのすみ分け

② 国内市場における自ブランド内での買い替え強化

- 過去ヒットモデル(W44K等)からの継続買い替え強化
- 三洋モデル内での継続買い替え検証、強化策検討

③ 提案型商品企画の推進

- ユーザー・キャリアに対し新規性・魅力ある端末の企画

④ 開発リソースの共有

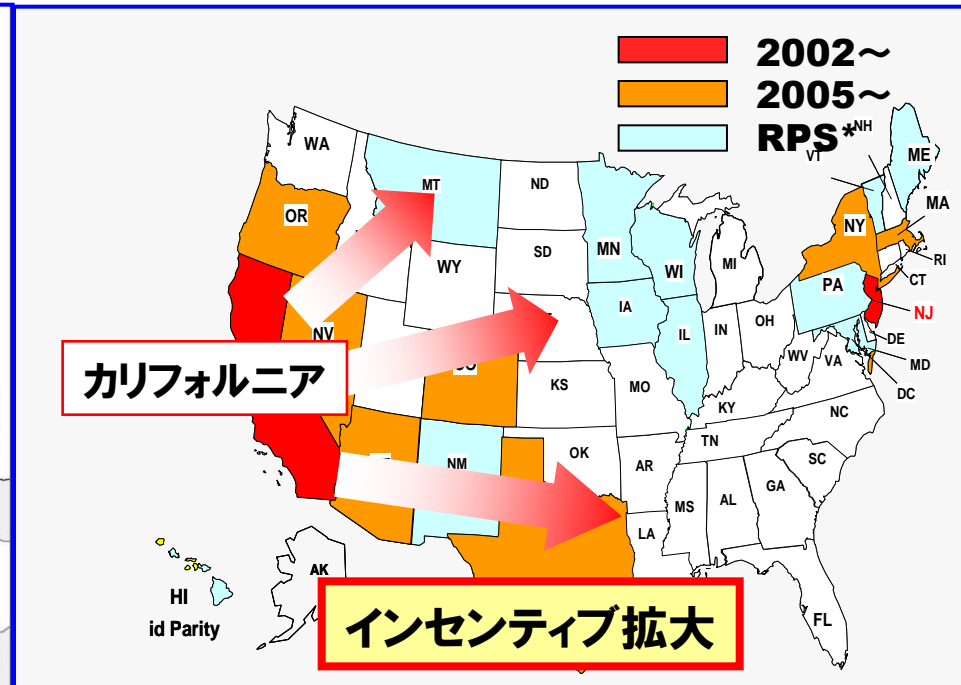
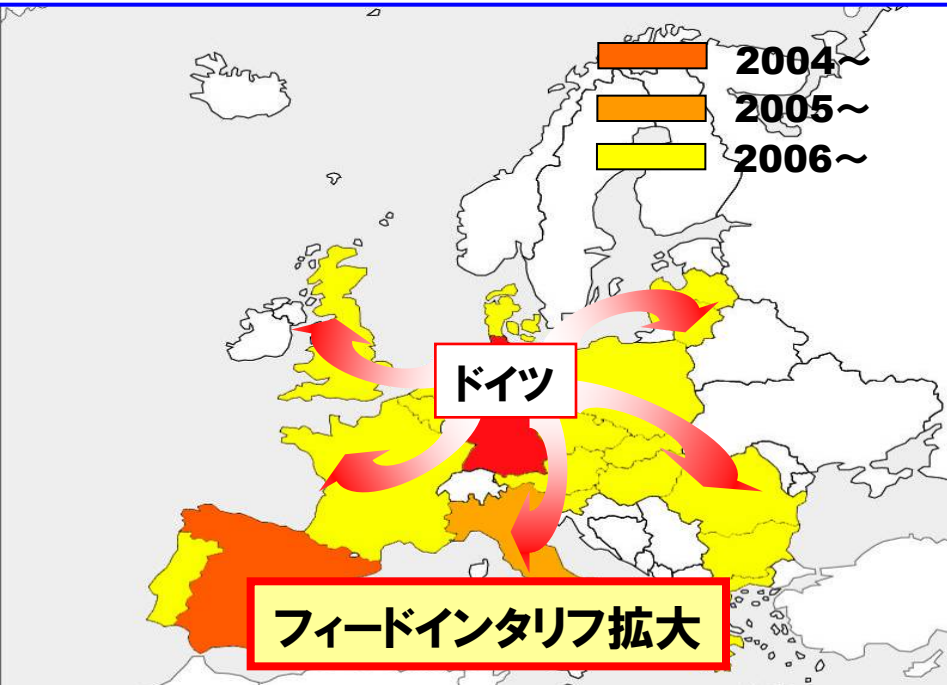
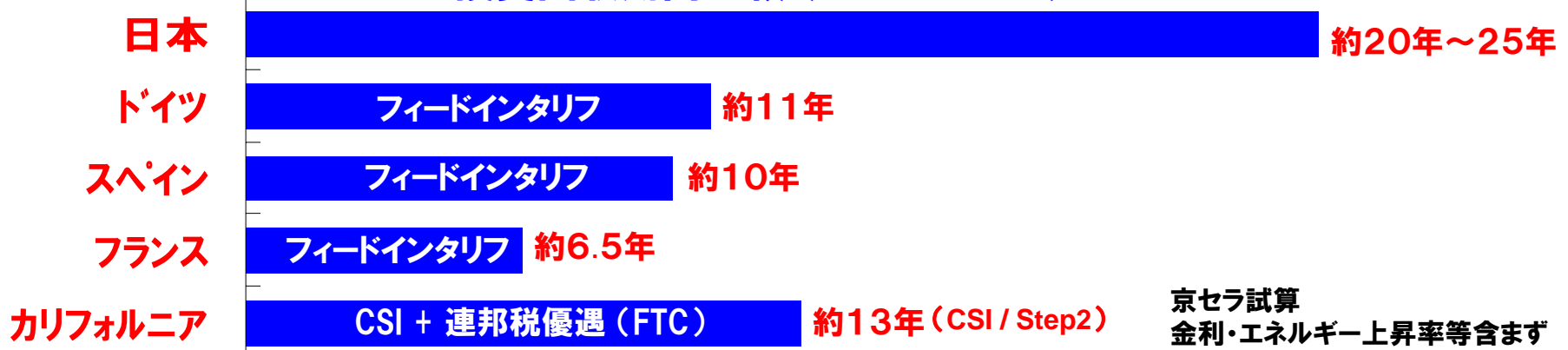
- FY2010に向けてW-CDMA事業の検討

⑤ ワイヤレス・ブロードバンド事業向けに対する協力検討

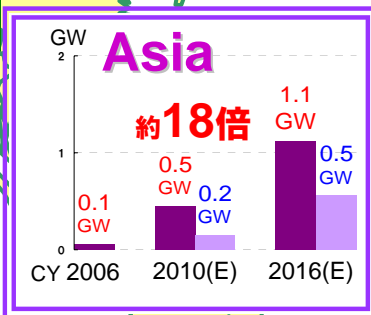
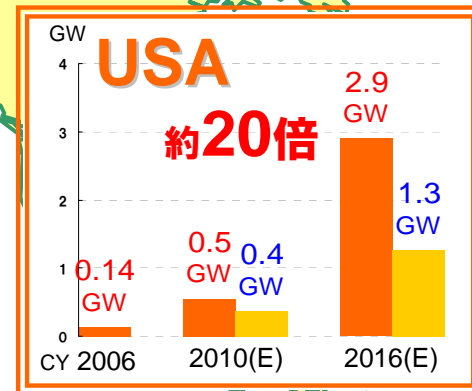
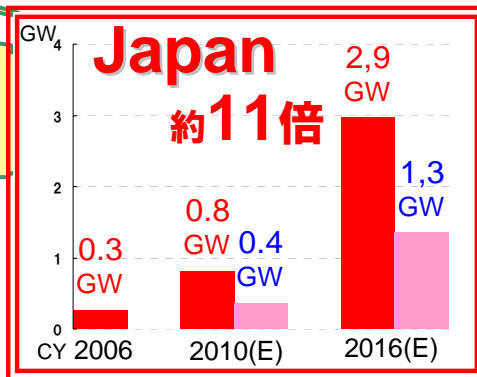
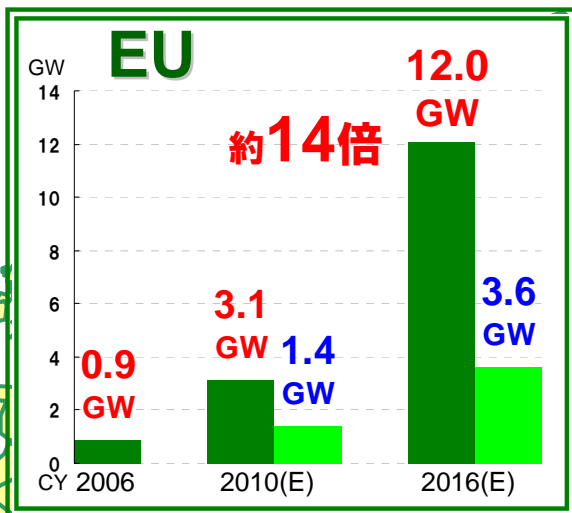
ソーラーエネルギー事業の展開

欧米市場の拡大を支える補助政策

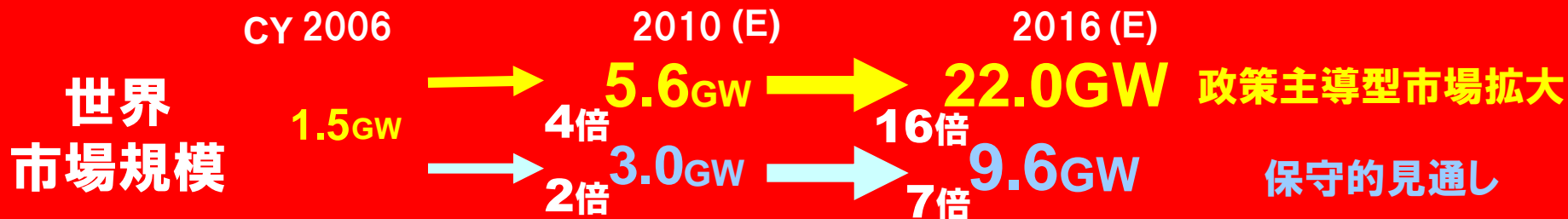
－ 投資回収期間比較（3kWシステム）－



主要市場見通し



左：政策主導型
右：保守的



(千トン)
200

原料メーカー増産計画と市場需要の比較

半導体需要+ソーラー需要

新規参入原料メーカー

CY2016
Solar
22GW

原料不足

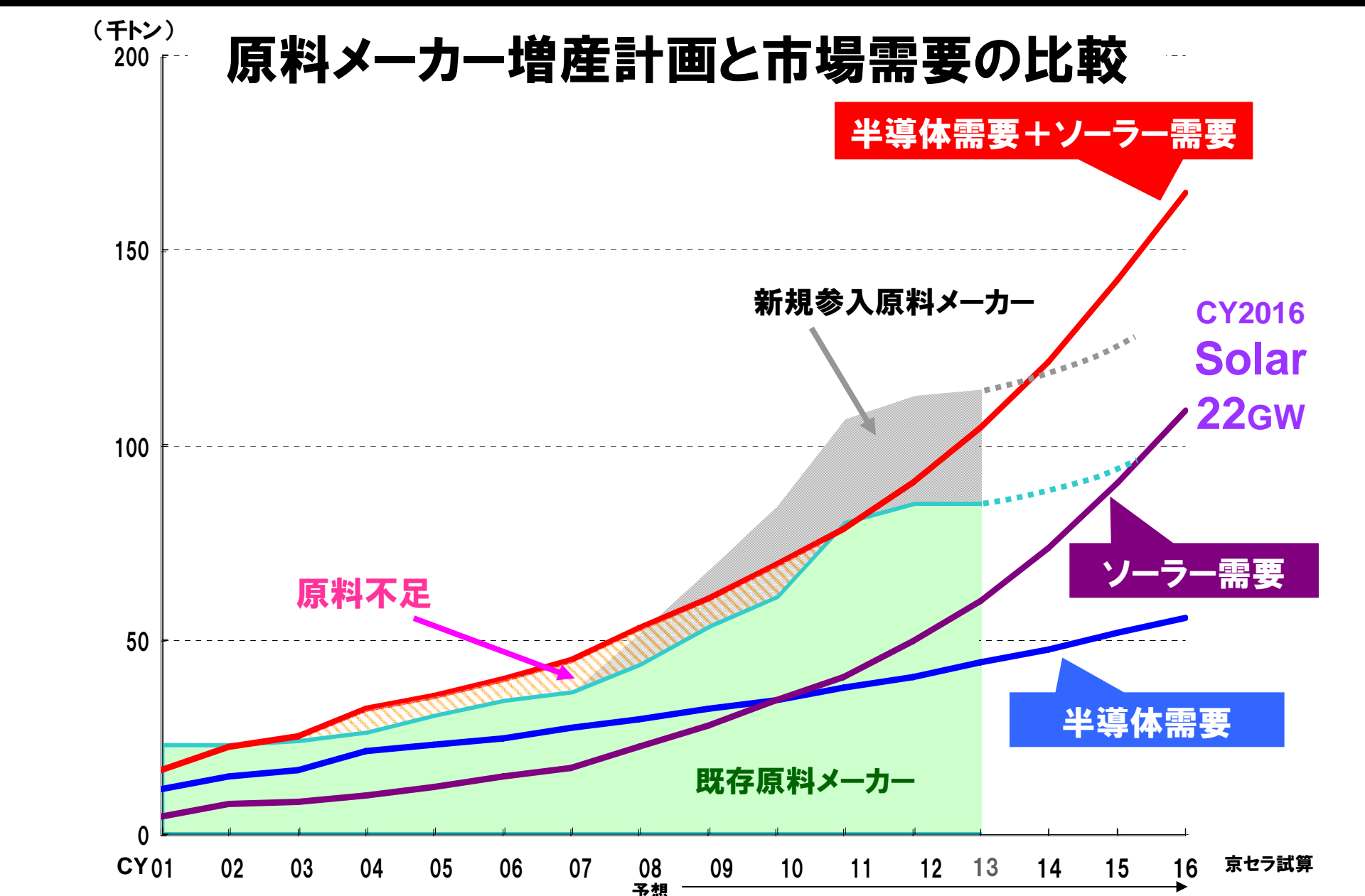
ソーラー需要

半導体需要

既存原料メーカー

CY01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 京セラ試算

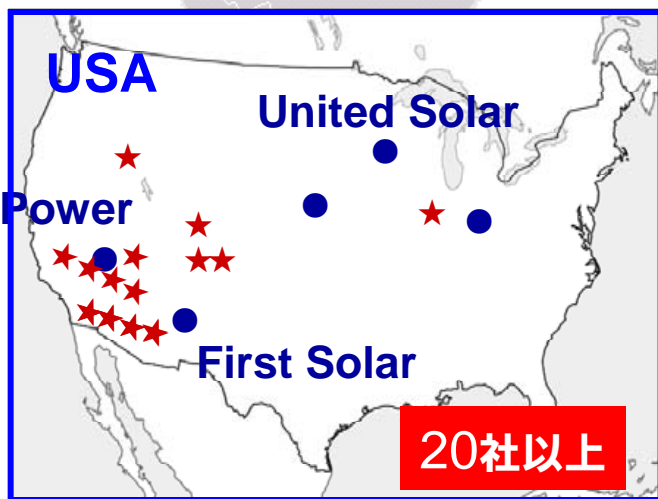
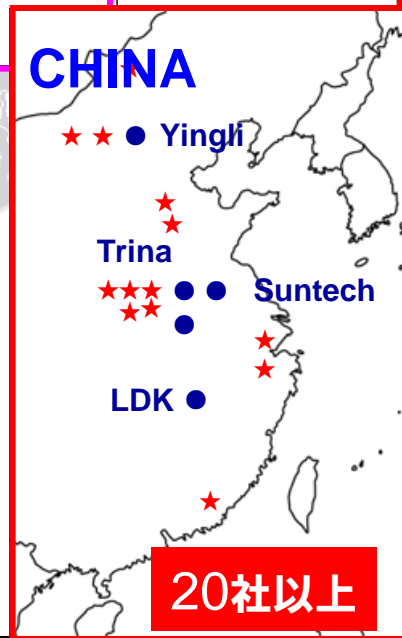
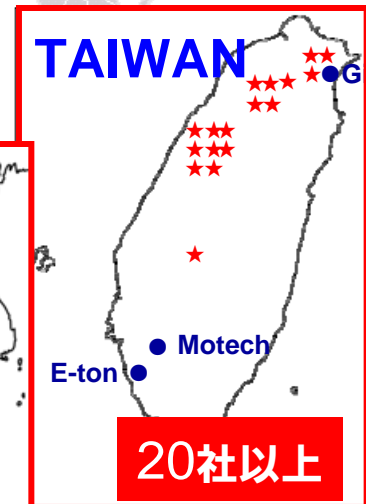
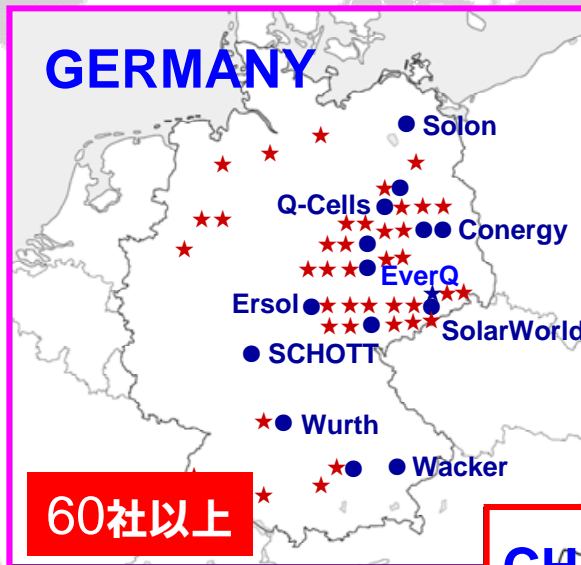
予想



海外の太陽電池メーカー

Cell / Module Maker

- Major
- ★ New



市場状況のまとめ

補助政策拡大

+

原料増産

||

メーカー勃興

欧州、米国、韓国、その他
⇒ **継続的な成長市場**

既存メーカー増産 + 新規メーカー参入
⇒ **供給面、価格面の安定化**

200~300社

ドイツEEG*法 フィードインタリフ買取金額見直し検討
減額率 5%/年 ⇒ 7~9%/年

*EEG= Erneuerbare-Energien-Gesetz
再生可能エネルギー法

「大競争時代」始まり

「コスト競争力(高効率化/生産性)・差別化商品開発力・品質力」 総合力の時代へ

コスト競争力(高効率化)

一貫生産体制→高効率化



Si原料



鋳造



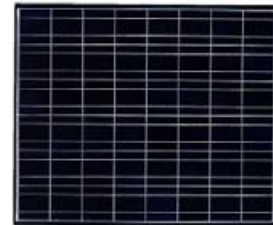
切断



基板



素子



モジュール

高効率化



結晶品質向上
不純物汚染対策



スライス条件最適化
薄型化
スライス材品質向上



パッシベーション
RIE技術
高シート抵抗技術
電極改善

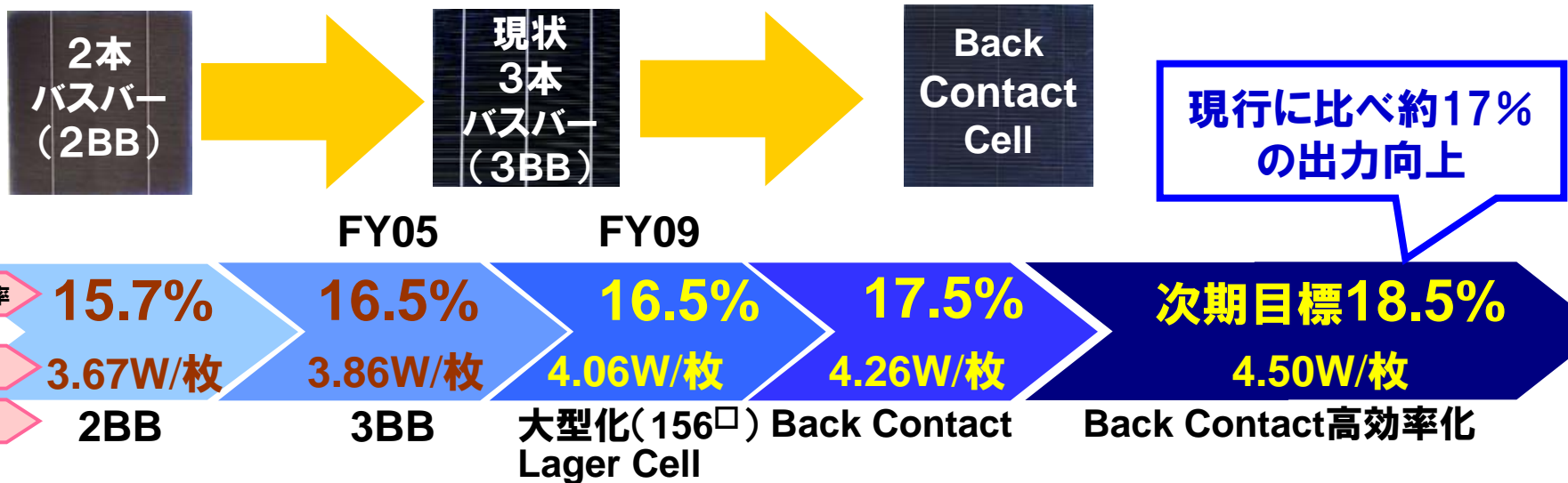


部材最適化
プロセス条件

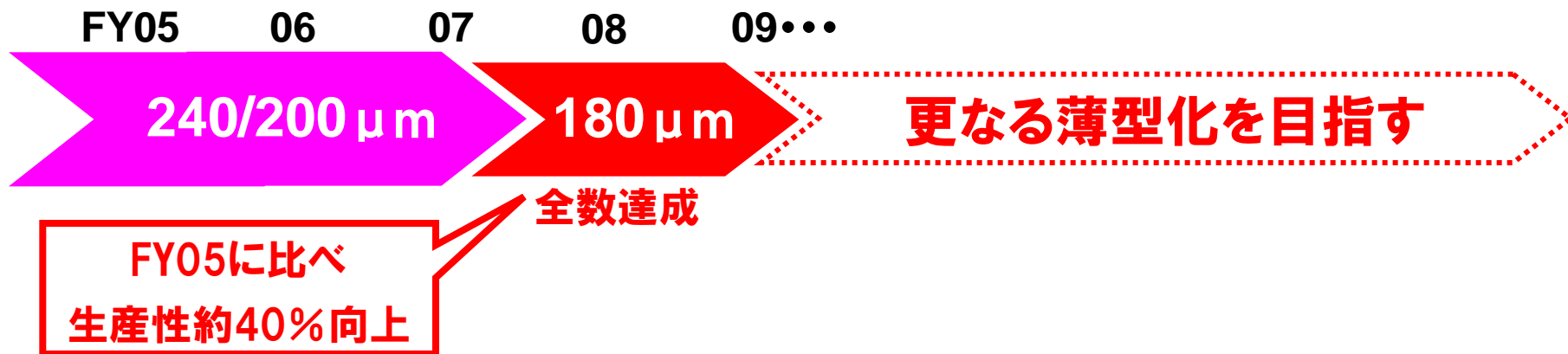
一貫体制 ⇒ 全ての工程の最適化により高効率化を目指す

コスト競争力(生産性)

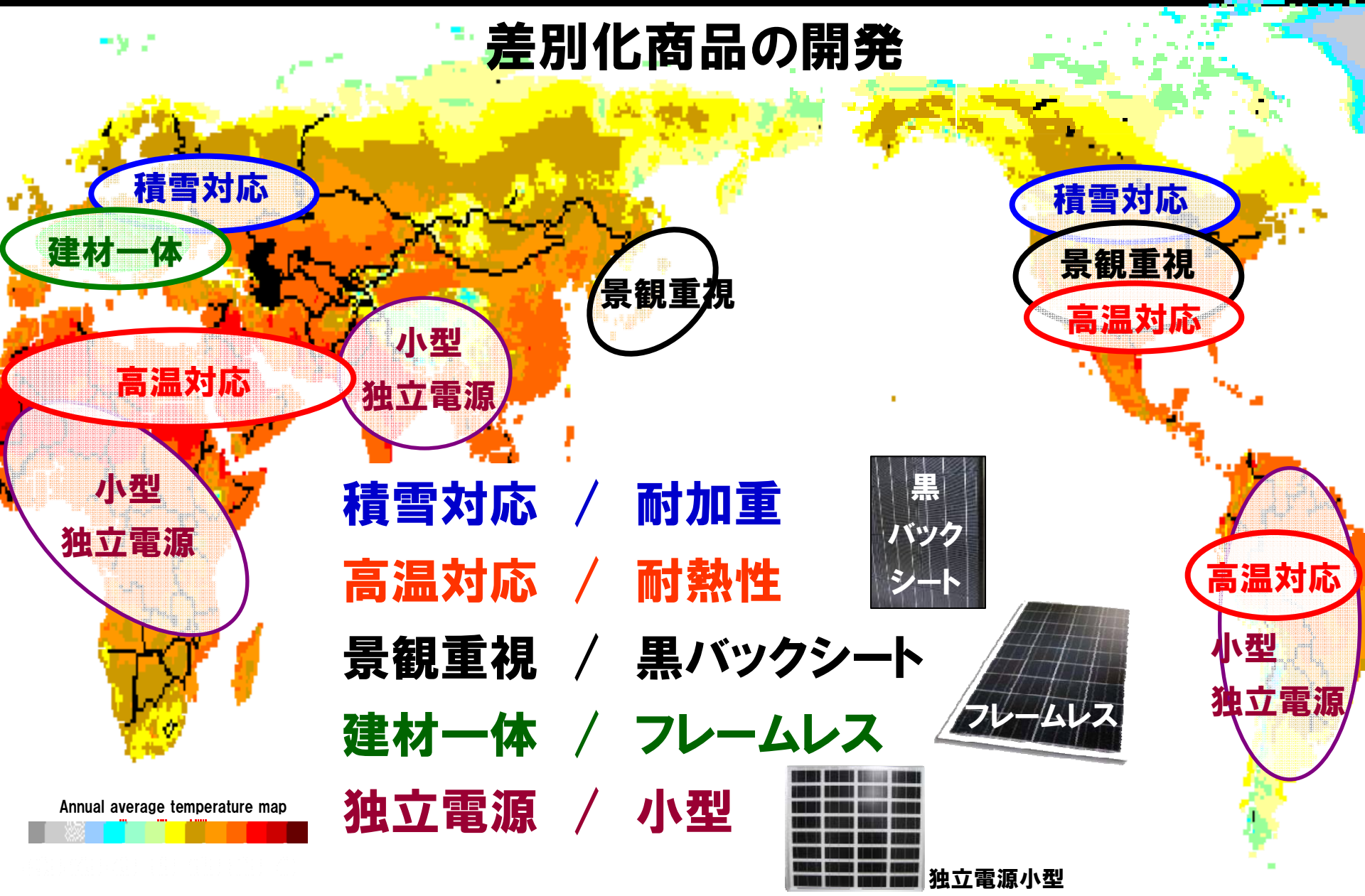
1. 素子効率向上



2. 薄型化



差別化商品の開発



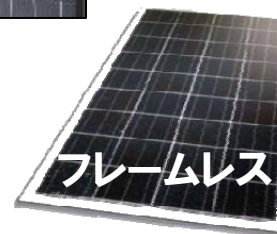
積雪対応 / 耐加重

高温対応 / 耐熱性

景観重視 / 黒バックシート

建材一体 / フレームレス

独立電源 / 小型



独立電源小型

Annual average temperature map



品質力

一般消費財テスト(ドイツ)にて最高評価!



品質 総合1位

メーカー数: 15社

Good Point 1.9

(1.0=Good, 6.0=No Good)

【評価項目】

発電能力

耐久性

信頼性

施工性

品質が“差別化”最大のポイント → 「品質の京セラ」

チェコ

中国

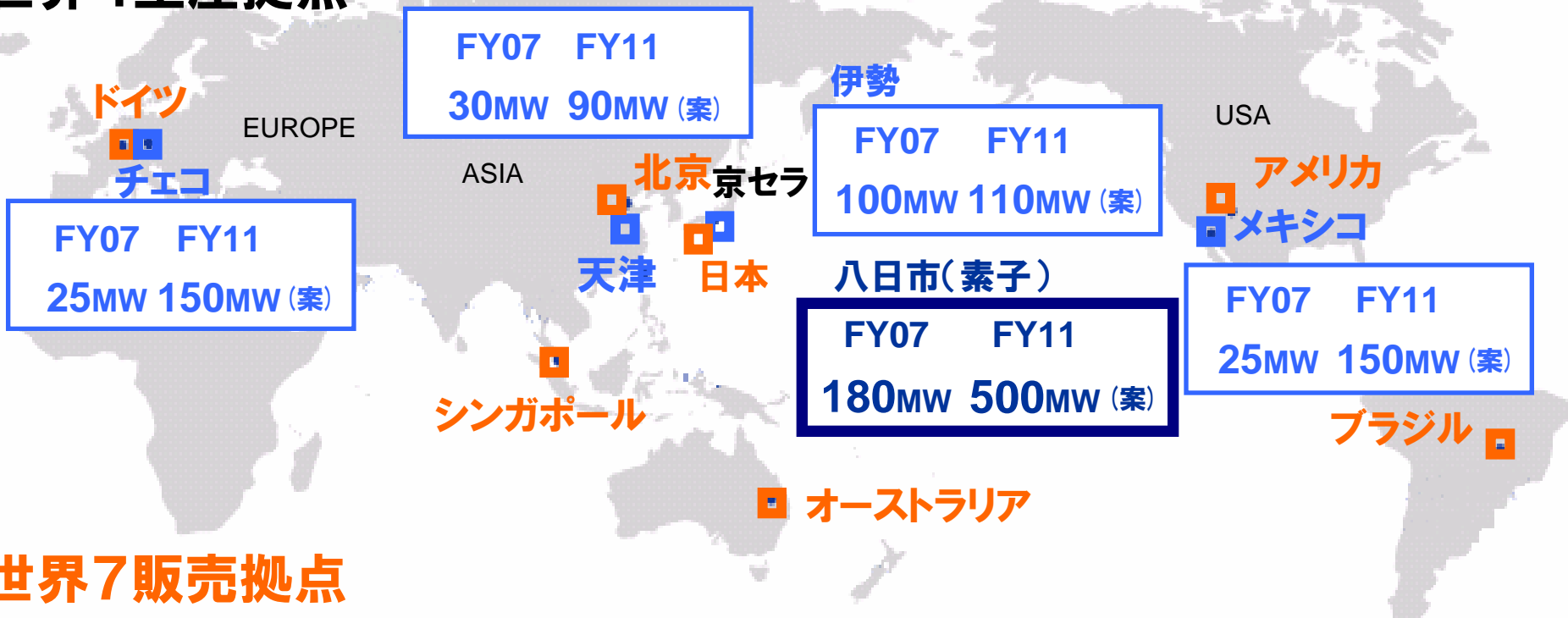
日本 / 伊勢

日本 / 八日市

メキシコ



世界4生産拠点



世界7販売拠点



ドイツ

シンガポール

中国

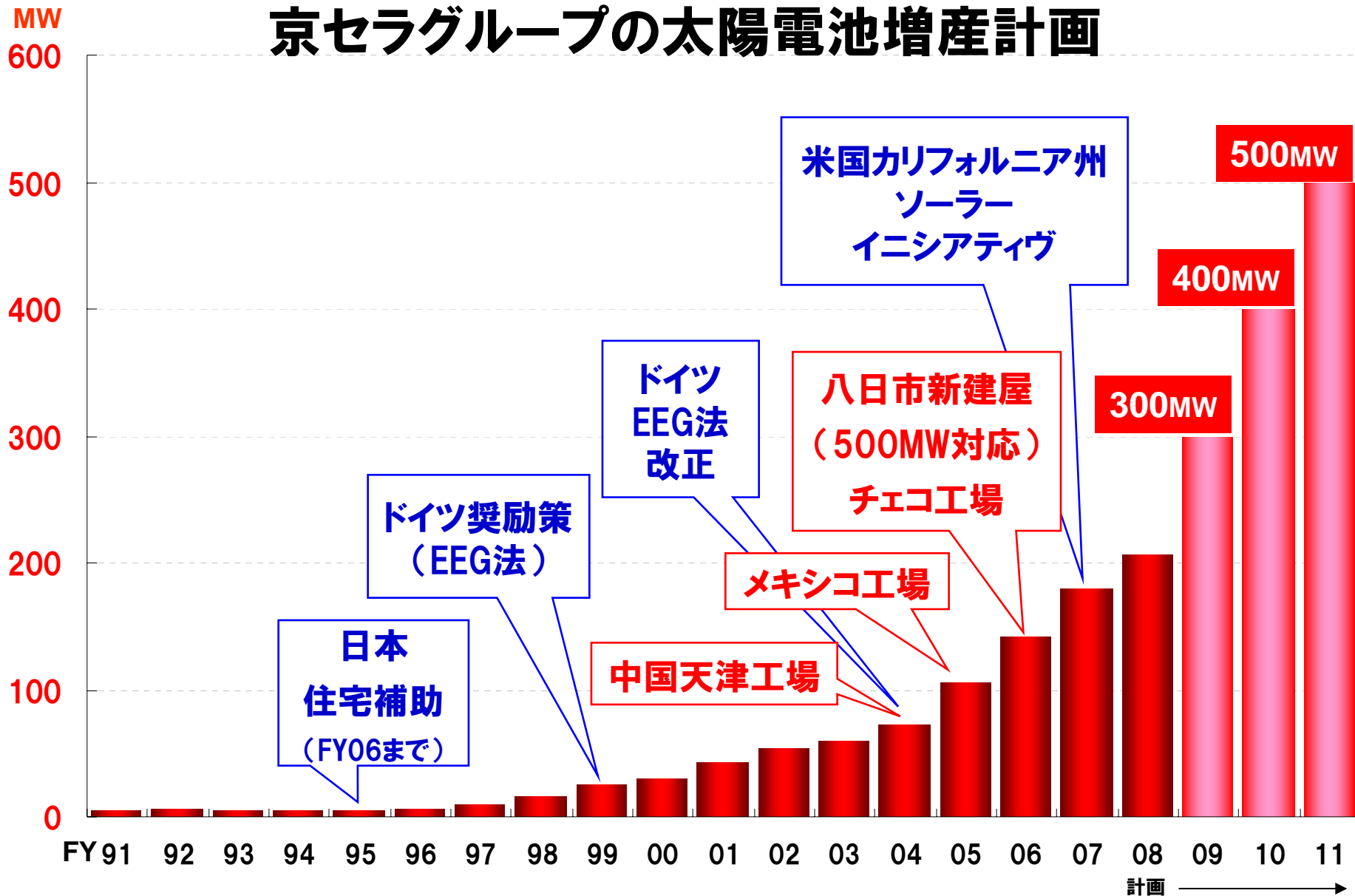
日本

アメリカ

ブラジル

オーストラリア

京セラグループの太陽電池増産計画



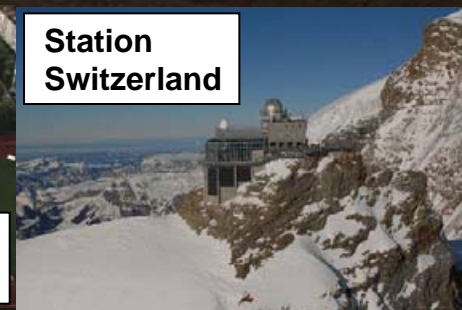
EUROPE



13.8MW
Salamanca - Spain



**Soccer Stadium
Switzerland 1.35MW**



**Station
Switzerland**

ASIA



**Taichun Science Park
Taiwan 70kW**

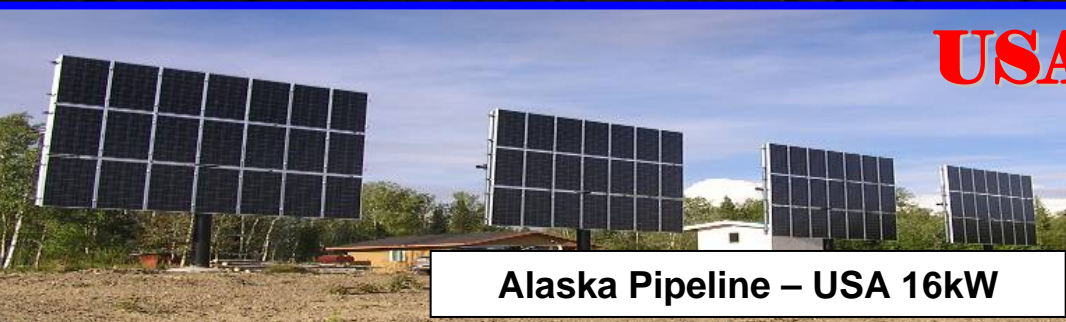


China 44kW



School - Timor

USA



Alaska Pipeline – USA 16kW



**New Jersey
Commercial 1MW**

JAPAN

イオン様 店舗への設置展開



バス停屋根 25.5kW



【イオン鹿児島：計140kW】



**屋上駐車場屋根
57.5kW**



【イオンモール羽入店：100kW】



【旭食品様(高知県)：500kW】

京セラの環境貢献への取り組み

【京セラ本社ビル】

「地球環境に優しく、地域と共生する建物」

- ① 太陽光発電システムの設置 214 kW
- ② ガスコージェネレーションシステム
 - ・ 発電機 520 kW×2台
- ③ 氷蓄熱式空調機の採用



【環境出前授業】

子供たちに環境問題や環境技術への関心を深めてもらい、地球環境の大切さを学んでいただく。

累計受講者 約50校 3,500名



当該資料に関する注意事項

2007年3月期に、ファイナンス事業を行う当社子会社であった京セラリーシング（株）を売却したことにより、京セラリーシング（株）に関わる営業成績及び売却益の合計額を、米国会計基準に従い、非継続事業の損益としています。この売却に伴い、2003年3月期から2006年3月期までの実績値についても同様の基準で一部組み替えて表示しています。

THE NEW VALUE FRONTIER



京セラ株式会社